

Ⅲ 事例研究のまとめ

各市町村で実施されている5日制対応事業（青少年事業も含む）の中から、整理された各課題に対応した特色ある事例を集め、調査研究委員会で検討した。ここでは、集められた各事例をまとめていくこととする。

1. 完全学校週5日制に対する保護者の意識について

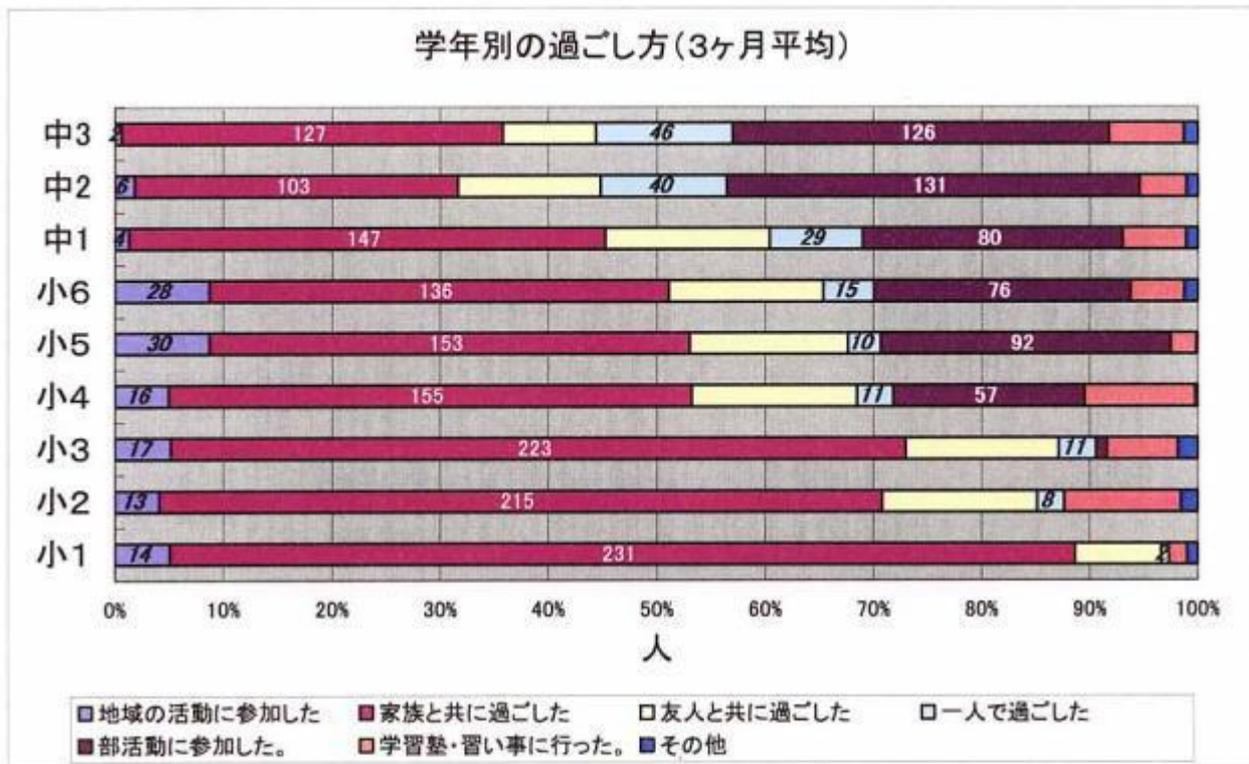
(1) 関係各団体等を通じた保護者への理解の浸透

【 事例1の特色 】

高根沢町では、町PTA連合会、町子ども会連合会、民生児童委員会等の会議で5日制の趣旨について説明した。また、「家族開放DAY」「チャレンジ教室」等の事業を展開するにあたって、各団体に協力を依頼し、子どもたちのふれあい学習の場を提供している。各団体は、5日制の趣旨について理解を示し、事業を通して草の根的に各家庭や地域にその理解の浸透を図ろうとしている。

《事例1》

事業名（施設名）	完全学校週5日制関連事業
事業主体（実施機関）	高根沢町教育委員会生涯学習課（高根沢町）
【事業（施設）の概要及び特色】	
1. 目的 完全学校週5日制の趣旨を説明することにより、理解を図る。また、家族が共に活動する場や、子供たちの体験活動の場を設定し、ゆとりの中で生きる力を育てる。実態調査により今後の展開を考える。	
2. 概要及び特色 町P連、町子ども会連合会、民生児童委員会などの会議の際、完全学校週5日制の趣旨について説明し、それぞれの立場で今後どのように対応していけばよいか考えた。 家族が共に活動できる場の提供として、町の体育館、テニスコート、町民ホールのピアノなどを開放している。（家族開放DAY）体験活動の場として、ボランティア講師による様々な教室を提供している。（チャレンジ教室） 毎月1回、子供たちの土曜日の過ごし方を調査し、問題点を探り今後の展開の参考にしている。	
3. 取り組みによる効果 ・ 各団体が、完全学校週5日制について正しく理解し、自分たちは何をすれば良いか考えるようになった。 ・ 「家族開放DAY」「チャレンジ教室」などにより、子供たちのふれ合い学習の場が広がった。 ・ 土曜日の子供たちの実態調査より、問題点が明らかになってきた。	
4. 今後の課題 ・ 行政主導型で行っているこの事業を、どのように地域に降ろし、それぞれの地域に根ざしたものにしていくか。 ・ さらに、保護者の意識の変容を促す。（意識調査の実施）	



3 考察

(1) 地域の活動について

- ① 小学校では、学年が上がるにつれて、地域の活動に参加している割合が高くなっている。
- ② 小学校と中学校を比べると、小学生の方が地域の活動に参加している。

(2) 家族と共に過ごすことについて

- ① 小学1年生は、83.7%が家族とともに過ごしている。本教委5日制のねらい（まず、家庭）と本町児童生徒の願い（家族とのふれあい）を達成しているとする。
- ② 学年が上がるにつれて、家族と共に過ごす割合が低くなっている。

(3) 一人で過ごすことについて

- ① 学年が上がるにつれて、一人で過ごす割合が高くなっている。
- ② 一人で過ごす1年生が2人いることは、福祉部局と相談していきたい。